

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.30 ◇◆  
2011年2月28日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート  
・インターネット問題とその対策の近況
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報  
・国の取組み情報  
・イベント情報  
・見どころピックアップ！
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング  
今月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード  
ペリネイタルビジット

皆さんこんにちは！

つい2週間ほど前までは、東京でも積雪を観測するなどまだまだ真冬の様相でしたが、小さな花や蕾を身に付けた木々もちらほらと見られるようになり、だんだんと景色も色づき始めつつあります。

まだ、真冬の寒さが続いていた今月中旬、当領域における今年度のメインイベントの一つ、第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウムを開催いたしました。連休の最終日にも関わらず多くの皆様にご参加をいただきましたこと、この場を借りて御礼を申し上げます。

シンポジウムでも取り上げた、近年深刻な社会問題となっている児童虐待に関連して、見過ごせないデータが。厚生労働省の調査(児童養護施設入所児童等調査結果(平成20年2月1日))によると、児童養護施設に入所している子どものうち、半数以上は、虐待を受けた経験があるというのです。

同省の児童養護施設等の社会的養護の課題に関する検討委員会の資料には、現行職員配置基準（学童以上子ども6人に職員1人）では、15～16人の子どもを職員1人で養育していることとなることや、居室の面積は、1人につき3.3㎡以上、児童の居室の一室の定員は15人以下と基準が定められているなど、児童養護施設の現状が記載されています。

その他にも、先に述べた被虐待児への対応や施設を出たあとのケアをどうするかなど、課題は様々あるようです。そういった環境や課題を改善しようと、厚生労働省では、先述の検討委員会を立ち上げ、施設の改善に向け、検討を行っています。

厚生労働省：児童養護施設等の社会的養護の課題に関する検討委員会資料  
第1回 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000011cpd.html>  
第2回 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000012t0i.html>

子どもの安全について改善が望まれる事案として、インターネットの問題もあります。こちらについて、気になる動き、調査結果が報告されていましたので、今号のレポートにて紹介させていただきます。

それでは、最後までお楽しみください。

---

## 1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

---

今月の領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。まずはプロジェクトから。

「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」プロジェクトでは、2月22日に保護司さんを対象とした研修会を実施しました。音や映像を用い、さまざまな工夫が施された研修会。発達障がいの少年について知ってもらいたいというプロジェクト実施者の熱意が伝わってきました。保護司さんからは次々と質問が出され、とどまることがなく、興味の高さが伺えました。これから全国のさまざまな地域での実施に向け準備を進めています。

2月26日には「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」プロジェクト協賛の「子どもの携帯電話利用を考える全国市民会議」が開催されました。本メルマガのレポートでも取り上げられている、携帯電話販売会社の実態調査について、調査に携わった方のお話や、フィルタリングの実験を通して、機能の限界を知り、ペアレンタルコントロールの重要性を再認識すると共に、この分野の流れの速さと深さを感じました。何より印象的だったのは、市民インストラクターの方々の寸劇やCM。地域毎にそれぞれ独自の表現方法で楽しみながらも、熱意が伝わってくる時間でした。

「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」プロジェクトでは、昨年開局したコミュニティFM（FMさかい、89.0MHz）で地域安全に関する情報などを発信しています。今月27日には、当領域の石附弘アドバイザーがゲスト出演し、領域やプロジェクトの取組みについて言及されたとのことでした。

来月5日には、「地域で力を進める『子どもの安全』シンポジウム」が開催されます。このシンポジウムは、当領域の活動の一環として、成果を地域社会に還元し、また地域社会からのフィードバックを得て今後の取組みに活かすことを目指して、今年度より開催しております全国キャラバンの第2弾です。

今回は、「演劇ワークショップをコアとした地域防犯ネットワークの構築」

プロジェクトを中心に、「演劇」「地域」「子ども」をテーマに大阪府枚方市にて開催いたします。

「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」の3プロジェクトの方々も登壇いたしますので、ご興味・ご関心のある方はぜひご参加ください。

申込み方法等の詳細はこちら → <http://hiratapj.web.fc2.com/>

領域では、冒頭で述べたように、13日に第4回シンポジウム「『虐待かも・・・』小さなサインを、大きな支援へ」を無事に終えることができました。お陰さまでこれまでで最も多くの方にご参加いただきました。

講演とパネルディスカッションでは、プロジェクト実施者の方々を始め、様々なお立場から虐待問題に取り組んでおられる方々に登壇をいただき、幅広い視点からお話をいただきました。ポスターセッションでは、全13プロジェクトの実施者の方々が来場者の皆さんと熱心に対話をしている姿が印象的でした。

当日の講演や議論の内容については、後日開催報告として取材記事を領域Webサイトに掲載いたしますので、ご期待ください。

---

## 2. 犯罪からの子どもの安全レポート

---

### ●インターネット問題とその対策の近況

クリック一つで様々な情報を収集できたり、世界中の人とつながりができたりと便利なインターネット。しかし子どもが被害に遭う事例も後を絶ちません。子どもたちが犯罪に巻き込まれる場（サイト）が日々変わっていき、対処する側とのイタチごっこです。

しかし、そんな現状に、手をこまねいてばかりではありません。行政、携帯電話事業者、コンテンツ提供会社、プロバイダーなど、様々な組織で対策が進められています。

このメルマガでも以前にお伝えしたことがあります。都道府県警察の職員が、携帯電話の加入契約を取り扱っている全国1,630店舗の店頭に出向いて、使用者の年齢確認、フィルタリングの必要性の説明及び加入奨励等の状況についての覆面調査が昨年12月に実施されました。その結果が先日、警察庁のWEBサイトに公表されました。

それによると、約60%の店舗では、利用を促す説明も十分で熱意も感じられたが、約40%については改善の必要があり、使用者の年齢確認をしなかった店舗が約27%もあったことが明らかに。今後の対策として、関係省庁とも連携し、携帯電話事業者に対する要請を継続したり、携帯電話販売店に対する実態調査を随時実施していくとのこと。

調査結果の中には、保護者が子どもの言いなりになっているといった記述も見受けられました。保護者自身が危険や現状を認識し、それをきちんと子どもに伝え、時にはフィルタリング解除を請う子どもに断固とした態度で臨むことも必要なのだと実感しました。

警察庁：携帯電話販売店に対するフィルタリング推奨状況等実態調査の結果について

<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen40/shounen20100217.pdf>

また今月から、警察庁が、各サイトにおける子どもの被害実態等について、情報提供を行うということで、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構（以下「EMA」）と覚書を交わしました。EMAとは、モバイルコンテンツの健全な発展と、青少年の発達段階に応じた主体性を確保しつつ違法・有害情報から保護することを目的とした第三者機関のこと。ここで健全と認定されれば、フィルタリングの対象外となることもあるので、ここでの決定は大きな意味を持ちます。

つい最近同庁より公表された統計によると、昨年一年間でコミュニティサイト（出会い系を除く）を利用して犯罪被害に遭った児童はこれまでに最多の1,239人に上るとの結果も出ています。その中で、EMAで健全と認定されたサイトを通じた被害が52.7%に上るとの報道もありました。

警察庁：平成22年中の出会い系サイト等に起因する事犯の検挙状況について  
<http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h22/pdf02.pdf>

こうした現状も踏まえて、同庁では、EMAに対する児童の犯罪被害情報提供により、サイトの認定・監視の強化を促進するという一方で、毎月17日に実際に情報を提供しました。一方のEMAでは、「他の申請内容等と合わせて自主的に中立の立場として実施している審査・運用監視の実効性を高めるために活用する」としています。

また、犯罪から子供を守るための対策に関する関係省庁連絡会議申合せでは、昨年12月に改定された「犯罪から子どもを守るための対策」を受け、「コミュニティサイトの利用に起因する犯罪から子どもを守るための緊急対策」を取りまとめました。

内閣官房：コミュニティサイトの利用に起因する犯罪から子どもを守るための緊急対策  
<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo/kettei/20110214kinkyutaisaku.pdf>

その他、児童ポルノ対策として、国が今年度内の導入を目指すネットの接続を強制的に遮断する「ブロッキング」について、実現に向けた動きが難航していると言われていましたが、遮断する単位や遮断の基準などの実施基準が定められたとのこと。それによると、該当する児童ポルノ画像が一枚でもあれば、サイト全体が遮断されることも。

当初の予定では、来月にもプロバイダーや大手ネット検索会社を中心となって新団体「インターネットコンテンツセーフティ協会（仮称）」が設立され、ブロッキングの対象となる画像のアドレスリストを作成する予定となっており、日本は児童ポルノ最大の生産国であり消費国であると世界から指摘されている中、今後の動きが注目されます。

冒頭で述べた「イタチごっこ」という言葉は、この問題に取り組む方々から実際によく聞かれます。しかし、そういった現状を踏まえ、様々な試み、対策が動き出していることに、少し心強さも感じます。

（領域担当 . S.F）

---

### 3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

---

## 【更新情報】

### ●国の取組み

平成22年中における子どもや女性を守るための匿名通報事業の運用状況について（警察庁）

[http://www.npa.go.jp/safetylife/hoan/h22\\_tokumei.pdf](http://www.npa.go.jp/safetylife/hoan/h22_tokumei.pdf)

犯罪統計資料（警察庁）〔平成22年1月～12月〕

<http://www.npa.go.jp/toukei/keiji35/hanzai.htm>

「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備に関する中間報告」の公表（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01kiban08\\_01000015.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban08_01000015.html)

今後の国立青少年教育施設の在り方について～新たな視点に立った体験活動の推進について～（報告書）（文部科学省）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/sports/010/toushin/1302055.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/010/toushin/1302055.htm)

「乳児家庭全戸訪問事業」及び「養育支援訪問事業」実施状況（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/kosodate.html>

「児童虐待防止のための親権の在り方」報告書取りまとめ社会保障審議会専門委員会（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000118z7.html>

その他の取組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

### ●イベント情報

平成23年3月5日 地域ので進める「子どもの安全」シンポジウム

<http://hiratapj.web.fc2.com/>

平成23年3月5日 第1回社会的養護における「育ち」「育て」を考える研究発表会

<http://hiratapj.web.fc2.com/>

平成23年3月8日 SECURITY SHOWセミナー

「防犯設備の未来がもたらす犯罪の起きにくい社会」

<http://www.shopbiz.jp/ss/seminar/#id74976>

平成23年3月13日 児童虐待防止全国ネットワーク 緊急シンポジウム

「児童虐待防止のための改正親権制度の実現に向けて」

<http://www.shopbiz.jp/ss/seminar/#id74976>

その他のイベントについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



## 【見どころピックアップ！】

今回の見どころはトピックスから、千葉日報に掲載された、先月23日に  
ページ(5)

東金で開催されたシンポジウム「青少年とケータイ・メディア」の記事です。

前回のメルマガでも参加レポートを掲載させていただきましたが、紙面の都合で残念ながら全てをご紹介することができませんでした。

こちらの記事では、当日の議論の内容が詳細に記されていますので、議論の様子が手に取るように分かるかと思えます。

子どもたち自身が登壇をして、体験談を話すことが特徴だった、このシンポジウム。壇上では一体どのような意見や議論が交わされたのか？ぜひご覧ください。

ネット社会の危険から身を守ろう  
ー地元中高生、保護者らがケータイ・メディアのあり方を考えるー  
(2011年2月9日 千葉日報)  
→ <http://www.chibanippo.co.jp/pdf/110209.pdf>

※千葉日報社より、リンクの許可をいただいております。

---

#### 4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

---

##### 【アクセスランキング】

- ☆ 1位 プロジェクト関与者インタビュー  
携帯電話、インターネット問題の怖さを子どもを見守る親の立場から伝えたい  
[http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad\\_04.pdf](http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad_04.pdf)
- 2位 「プロジェクト実施者インタビュー 第9回  
「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」 (1)  
[http://anzen-kodomo.jp/pdf/col19\\_1.pdf](http://anzen-kodomo.jp/pdf/col19_1.pdf)
- 3位 イベント情報  
<http://www.anzen-kodomo.jp/event/>

---

#### 5. 今月のキーワード

---

##### 「ペリネイタルビジット」

ペリネイタルビジットとは、周産期小児保健指導のことで、産科医と小児科医が連携し、出産前後の保護者に対し、小児科医による育児指導を行い、保護者の育児不安軽減、子どもの虐待防止を図るものです。出産前後の保護者に対するアプローチの重要性は、冒頭で述べた領域のシンポジウムでも話題に上っていました。

先日、「虐待によって死亡する0歳児が増えており、その中でも生後1カ月未満が多く、母親が妊婦健診を受けないなど、妊娠中に胎児に関心を払わない“胎児への虐待”が背景の一つになっている」として、日本医師会が妊婦教育も含めた対策の検討を始めた」との報道がありました。そこで具体的な対策の一つとして挙げられていたのが、ペリネイタルビジットの普及です。

厚生労働省が実施した、平成20年4月1日から平成21年3月31日までの間の事例についての調査によると、この間に心中以外の子ども虐待による死亡事例として厚生労働省が把握した人数は67人。うち0歳児は39人で、26人（0歳児の66.7%）が生後1か月に満たない時期に死亡していた、という深刻な結果も出ています。

その中で、「虐待の発生予防や早期発見・早期対応の観点から、乳児家庭全戸訪問事業や養育支援訪問事業の着実な実施に加え、様々な機会をとらえて妊娠期からの支援を特に必要とする家庭に対して、必要な情報提供や支援を行うことが必要である」とも述べられています。

厚生労働省：子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第6次報告）  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv37/index\\_6.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv37/index_6.html)

虐待の要因は様々ですが、未然予防という重要な観点からの対策として、要注目です。

\*\*\*\*\*

### 「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

[c-info@anzen-kodomo.jp](mailto:c-info@anzen-kodomo.jp)

■発行日 2011年2月28日

■発行元

（独）科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>

\*\*\*\*\*